

経営継承事例調査結果（令和3年11月）  
～令和2年度（株）にきや（仁木町）～

1 経営継承までの経過

- コロナ渦で海外からのツアー客が減少したことなどから、令和2年度に将来的な観光アイテムのひとつとして活用もできる観光果樹園に旅行代理店から参入。
- 高齢のため引き継ぎ先を探していた移譲者がタイミング良くいて、観光協会を通じてマッチング。
- 譲渡の条件は、すぐには決まらなかったが、何度も話し合った結果、良い条件となった。

2 移譲者とのつながり

- 農業知識が全くない業界からの参入であることから、わからないことがあれば現在も近隣に住んでいる移譲者からいろいろと教えていただいている。
- 移譲者からの特別な希望は受けていないが、受け継いだ樹木その他、前果樹園とのつながりがわかるような看板デザインにするなど、何十年も果樹園を運営してきた思いを尊重したいと考えている。

3 経営継承において困難だったこと

- 従業員1名以外は農業知識が全くなく、すべて手探りで勉強。

4 今後の課題と方向、経営継承してから新たにチャレンジしていること

- 移譲者から引き継いだ品種以外にもいろいろな品種や栽培方法にチャレンジしたいと考えており、いろいろな人に教えてもらったり、文献等で知識を学び実践。
- せっかく引き継いだ施設は活かしたいので、ログハウスは改修経費がかさんだが、ワーケーションとりんごを使った発泡酒などの醸造施設として活用予定。アフターコロナの観光アイテムとして活用したい。



<代表取締役社長 駒井 史生氏>



<株式会社にきやの看板>